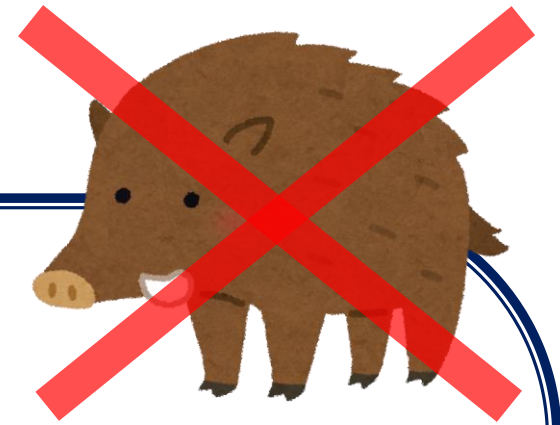


# 豚熱防疫対策を再徹底しましょう！

現在、近隣の宮城県、山形県で豚熱に感染した野生いのししが多数確認されており、発見地点も北上しています。また、県内では感染した野生いのししは確認されていませんが、**目撃事例は増加傾向**にあります。これまでの発生事例では、農場周囲において豚熱陽性の野生いのししが複数頭確認されていることから、**改めて下記のとおり防疫対策を再徹底しましょう！**



## ① 飼養衛生管理の徹底

病原体侵入防止のため、飼養衛生管理基準を再徹底し、**不備がある場合には早期に改善しましょう。**

特にワクチン接種農場における豚熱発生の**多くは離乳豚舎において発生**しているため、豚舎への侵入防止対策を再徹底しましょう。

## ② 早期発見・早期通報の徹底

特定症状（別紙参照）を呈する豚を発見した際には家畜保健衛生所へ速やかに届け出ましょう。

十和田家畜保健衛生所

電話 0176-23-6235(平日) 携帯 090-6453-7023(休日・夜間)

ホームページ

十和田家畜保健衛生所

検索

# これらの特定症状に気をつけましょう！

## 豚熱

耳翼・四肢等の紫斑

または

同一豚房（豚舎）内で

- ・40度以上の発熱
- ・便秘、下痢、血便
- ・結膜炎（目やに）
- ・歩行困難、後躯麻痺
- ・けいれん
- ・ひね豚
- ・流死産
- ・皮下出血、紅斑を呈した豚の増加が見られる

2018年9月以降  
国内続発中



元気がない



結膜炎

写真出典：岐阜県

重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しいけいれんなどの神経症状・皮下出血による紫斑（尾翼・尾・腹部・内股部）を呈し死亡

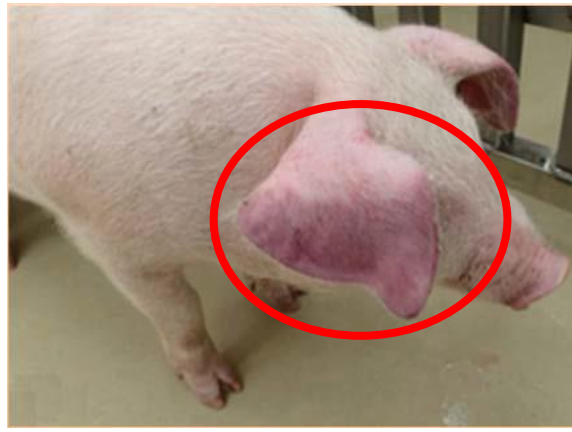
耳翼の紫斑

## アフリカ豚熱

アジア諸国で  
発生確認



死亡



紫斑

病状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性の症状を示す。甚急性では突然死亡、急性では発熱（40～42℃）、皮下出血、脾臓の腫大、粘血便、紫斑等を呈し、死亡率は100%に近い。

## FMD（口蹄疫）

39℃以上の発熱

と

- ・泡状のよだれ
- ・歩き方がおかしい
- ・起立できない
- ・泌乳停止あるいは乳量の大幅減少

いずれかの  
症状を示し

口の中、唇、鼻、蹄、乳房の  
いずれかに  
水疱、びらん、潰瘍  
または痂痕がみられる。



蹄球部皮膚のびらん、潰瘍



鼻端の水疱



鼻平面の潰瘍



乳房、乳頭の水疱、  
びらん、痂皮